

赤穂市女性交流センターだより

第15号 2018.6

女性センターには、女性問題・男性問題に関する図書・行政資料をそろえ、誰でも自由に閲覧できるような情報図書コーナーがあります。その中の図書を中心に本などを紹介します。

「好き」の？がわかる本

石川大我 太郎次郎社刊



石川さんは現職議員さんで、日本で初めてゲイであることをオープンにして当選しました。

LGBTの言葉の意味は言えるけれど、それ以上のことはわからないという人にオススメの本です。人の性はカラダの性・ココロの性・スキになる性の3要素から成ることから始まり、LGBTへの誤解・悩み、カミングアウト・LGBTクイズなど具体的にわかりやすく書かれています。巻末にはLGBTの様々な団体などの紹介もあります。幼い頃から自分の性で苦しんでいる子供は命をかけて悩み抜いていることなど、本当に知らないことがたくさん書かれています。

(女性交流センター蔵書)

おひとりさまでも だいじょうぶ。

吉田太一 ポプラ社刊



吉田さんは日本初の遺品整理専門会社をつくられた人です。孤独死の現場から感じたこと・その現場を通じて本当のひとりにならないための具体的なアドバイスが書かれています。「おひとりさま」「孤独死」という言葉から、他人事と勝手に思い込んでいましたが、人間一人で生活している時間があるんですね（当たり前ですが）。大学生になり一人暮らしを始めた青年の孤独死について書かれていて衝撃的でした。また、発見が遅くなった死体は腐敗し、部屋の整理が大変なことや費用がかさむこと、残された人の心の整理が大変難しいことも知りました。知らないことばかりで驚くことが多かったのですが、人とのつながりがあるから生きていけるということを改めてしっかりと教えてもらいました。



7月17日(火)・8月21日(火)は、カウンセラーによる相談日です。ご希望の方は、市民対話課(☎43-6818)または女性交流センター(☎43-7800)にご予約下さい。

こんな表

見たことありませんか？

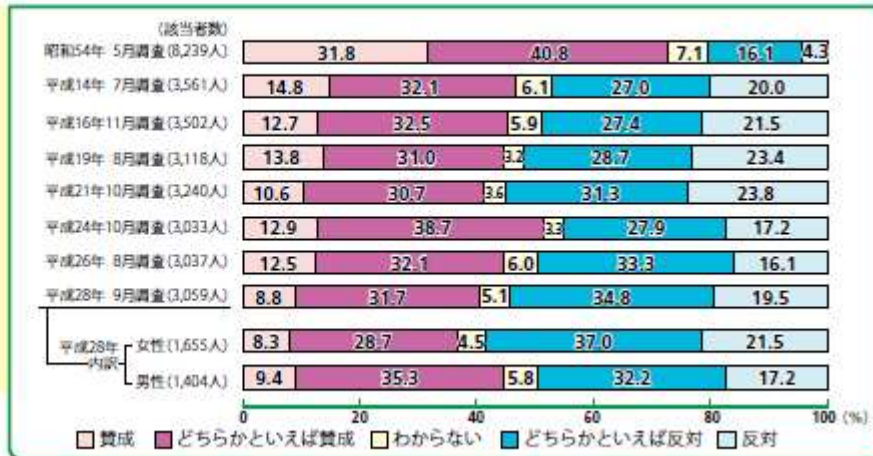


2 固定的な性別役割分担意識 <夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである>

昭和54年調査では賛成の割合が7割を超えていましたが、平成16年調査で明確に反対(「反対」+「どちらかといえば反対」)が賛成を上回り、19年調査では反対が5割を超えました。

その後、24年調査では賛成が反対を上回りましたが、26年調査で再び反対が賛成を上回り、28年調査でさらに反対の割合が増えました。

備考
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成28年9月)より作成



賛成の意見の中に「妻が家庭を守った方が子供の成長などにとって良いと思うから」「家事・育児・介護と両立しながら妻が働き続けることは大変だと思うから」「夫が外で働いた方が多くの収入を得られると思うから」などがありました。反対の意見の中には「意識を押し付けるべきではないから」「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」「夫も妻も働いた方が多くの収入が得られると思うから」「男女平等に反するから」などがありました。賛成・反対のどちらの意見をみると、どちらか一方が正しいと決めることが難しく思えます。しかし、「家事・育児・介護は女性の役割」という考え方が、女性の様々な生き方を制約し、社会参加・参画を妨げるだけでなく、男性を家事・育児・介護など家庭での大切な役割から遠ざけてしまっていると考えられます。改善されているとはいえ、日本はまだ男性優先と思われることが多いので、反対意見が大半を占めるようになるのはまだまだ先のことだと感じてしまいます。この意識が徐々に薄れ、人の意識がさらに変化していくことを期待しています。



育児休業を取得して就業を継続する女性の割合は増加傾向にあります。第1子出産前有職者のうち約何割が第1子出産を機に離職するのでしょうか？

